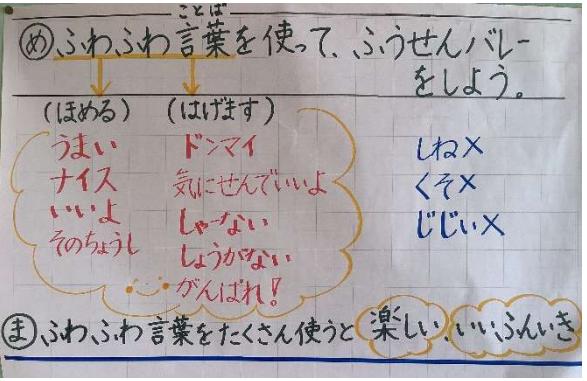


校種 (学級・教室の種別)	小学校 (自閉症・情緒障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗にこだわりがあり、ゲームなどに負けると泣いてしまう。 ・ゲーム等に勝ちたい気持ちが勝ってしまい、友だちに乱暴な言葉遣いをしてしまう。 ・負ることに抵抗があり、うまく友だちの輪の中に入れない。 	目標 ・ 指導 内容	ふわふわ言葉 (相手がうれしくなる言葉)を使って風船バレーをしよう。
指導の経過・ 工夫点・子ど もの変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをするときに「嫌な言葉を言われると楽しくない。」という感想から、めあてを提示した。 ・風船バレーの前にふわふわ言葉をたくさん出させて板書してから、風船バレーをしたことによって、乱暴な言葉はほとんど見られなかった。 ・ビデオを撮っておいて、それを見ながら点数をつけていったので、客観的に自分の言葉を振り返ることができていた。 ・ふわふわ言葉を使ってゲームをする方が、楽しい雰囲気になるという感想があった。 	 <p>⑥ふわふわ言葉を使って、ふうせんバレーをしよう。</p> <p>(ほめる) (はげます)</p> <p>まい ドンマイ 気にせんでいいよ しね×</p> <p>ナイス いいよ じゃない くそ×</p> <p>いいよ その通り じゃない じじい×</p> <p>その通り じゃない くそ ×</p> <p>⑦ふわふわ言葉をたくさん使うと 楽しいいいふんいき</p>	
成果と課題・ 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間だけではなく、継続してやっていく必要があると感じているので、定期的に「ふわふわ言葉」を使って活動をしていきたい。 ・乱暴な言葉の児童がいるが、まずは担任が「ふわふわ言葉」を率先して使っていくことが大切だと感じた。個々によって言われてうれしい言葉が違うので、そこにも気を付けながら言葉を選んで使っていくようにしたい。 ・友だちのよいところを見つけて書いてくれる係があるので、「ふわふわ言葉」が使えた子の言葉を教室に掲示していくようにする。 		